

韓国環境部プレスリリース 2020年3月15日付

京畿道と江原道の野生イノシシから ASF ウイルス検出（野生イノシシ 367-378 例目）

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do;jsessionid=wvonEO18wM8aSuPN41zeE8AN.mehome1?pagerOffset=0&maxPageItems=10&maxIndexPages=10&searchKey=&searchValue=&menuId=286&orgCd=&boardId=1353225&boardMasterId=1&boardCategoryId=&decorator=>

□環境部所属国立環境科学院(院長チャン・ユンソク)は3月13日～14日江原道（カンウォンド）華川郡（ファチョンゲン）上西面（サンソミョン）および華川邑（ファチョンウプ）、京畿道（キョンギド）漣川郡（ヨンチョンゲン）漣川邑（ヨンチョンウプ）で発見された野生イノシシの死体12個体からASFウイルスが検出されたと3月15日明らかにした。

□国立環境科学院は3月15日死体12個体からASFウイルスを確診と結果を関係機関に通知した。これで華川郡（ファチョンゲン）154件、漣川郡（ヨンチョンゲン）130件、坡州市（パジュシ）72件、鉄原郡（チョルウォンゲン）22件、合計378件の野生イノシシASF陽性事例となった。

○野生イノシシASF標準行動指針により試料採取後現場消毒と共に死体を処理した。

□国立環境科学院は「今回確診なった死体は全て広域フェンスの中で発見され、既存感染個体発見地域と10m～700m近隣していた。この地域では感染死体がさらに出てくる可能性が高いため、徹底的に搜索している」と明らかにした。

以上